

兵庫県立赤穂海浜公園リノベーション計画

令和8年3月

兵庫県西播磨県民局光都事務所

兵庫県まちづくり部公園緑地課

目 次

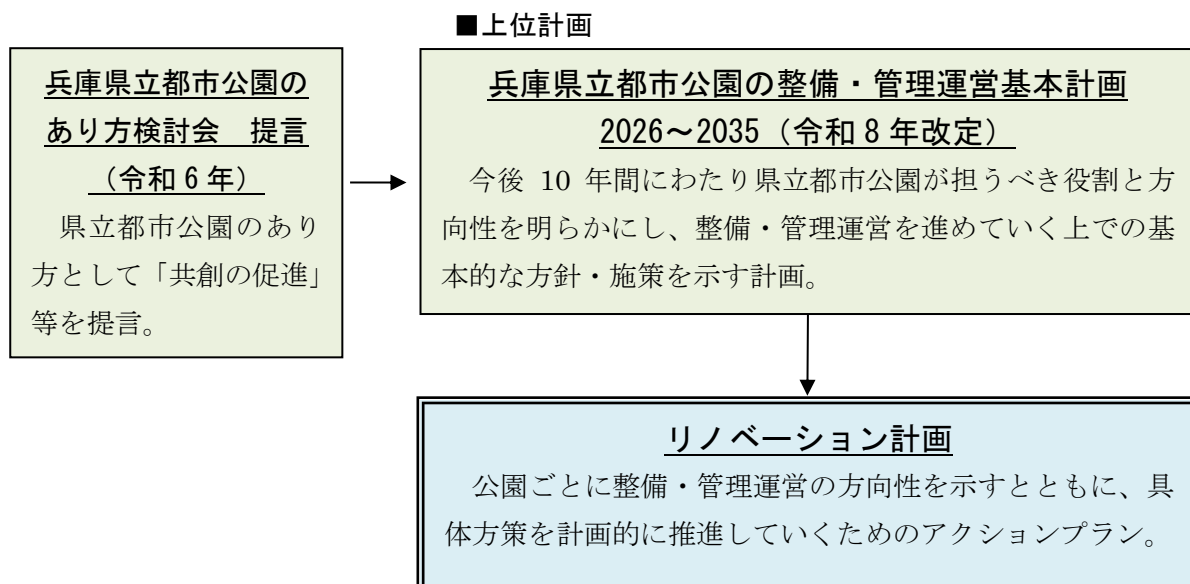
1	計画の基本的事項	1
1-1	背景と目的	1
1-2	リノベーション計画更新の考え方	1
2	計画の推進	2
2-1	都市公園を取り巻く状況	3
2-2	リノベーション計画の進め方	4
	(参考)【表 県立都市公園の成り立ち】	5
3	赤穂海浜公園の計画内容	6
3-1	赤穂海浜公園の概要	6
3-2	リノベーションテーマ	9
3-3	リノベーション方針	9
3-4	取組内容	12

1 計画の基本的事項

1-1 背景と目的

兵庫県では、「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画 2026～2035」（以下、「基本計画」という。）に基づき、「誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園」の実現を目指し、県立都市公園の整備・管理運営を推進しています。

基本計画では、全ての県立都市公園を対象にして、基本的な方針・施策を示すとともに、各公園が取り組むべき具体的な内容について、各公園のリノベーション計画（アクションプラン）に位置づけた上で、「共創」の理念のもと、事業を展開していくこととしています。



1-2 リノベーション計画更新の考え方

社会情勢等を踏まえ、管理運営協議会等で検討した上で、随時、計画の点検・見直しを行います。

Column 兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画とは？

「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画 2026～2035」では、県立都市公園の将来像、推進体制及び方針・施策を下記のとおり定めています。

将来像

誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園

県民と育む推進体制

将来像の実現に向けて、様々な分野の県民・指定管理者・行政が「共創」の理念のもと、それぞれの役割を發揮しながら、基本計画の施策を推進していきます。

施策方針と施策

将来像	施策方針	施策
誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園	1 県民にとってより身近な公園	(1) 心身の健康の増進 (2) こどもの健やかな成長の促進 (3) 安全・安心な場としての充実
	2 誰もが自分らしく過ごせる公園	(4) 多様な過ごし方の実現 (5) 誰もが快適に利用できる環境づくり
	3 地域のつながりを育む公園	(6) 地域連携の推進と地域文化の保全
	4 自然環境を次世代へつなぐ公園	(7) 生物多様性確保の推進 (8) 気候変動への対応の推進
	5 持続可能なパークマネジメントの推進	(9) 老朽化対策や改修の計画的な推進 (10) 持続可能な管理運営の推進

2 計画の推進

2-1 都市公園を取り巻く状況

基本計画では、都市公園を取り巻く潮流や都市公園に求められる事項を下記のとおり整理しています。リノベーション計画において、各公園における具体的な取組内容を検討する際は、下記事項を踏まえて検討します。

●潮流

(1)まちづくり GX

「気候変動への対応」、「生物多様性の確保」、「Well-being の向上」等の社会的要請に対して、都市公園の多様な機能を活かした取組を推進。

(2)都市公園法の改正(平成 29 年)

平成 29 年の都市公園法の改正により、民間活力を活用した Park-PFI 制度が新たに設けられ、官民連携を推進する制度が拡充。

(3)国による都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(令和 4 年)

提言では、“使われ活きる公園”の実現に向け、「まちの資産とする」、「個性を活かす」、「共に育て共に創る」の 3 つの変革と、「グリーンインフラとしての利活用」、「誰もが快適に過ごせる空間づくり」、「利用ルールの弾力化」、「社会実験の場としての利活用」、「担い手拡大と共創」、「自主性の向上」、「公園 DX の推進」の 7 つの重点施策が示されている。

(4)県による県立都市公園のあり方検討会提言(令和 6 年)

提言では、都市公園の整備・管理運営においては、「県民参画による共創の促進」と、「公園の特性に応じた柔軟な対応」等が重要と示されている。

●都市公園に求められること

(1)公園利用の変化への対応

- ・障がいのある方や高齢者、外国の方等、多様な利用者が快適に過ごせる空間づくり
- ・多様化する利用ニーズに対応するため、利用ルールの柔軟な運用（ボール遊び等）

(2)地域との連携強化

- ・地域活性化や地域課題の解決に向けた、周辺施設や民間企業との連携強化
- ・地域文化の継承に向け、公園資源や周辺地域の資源を活用した取組の推進

(3)環境問題への対応

- ・生物多様性の確保や気候変動への対応に向けた、都市公園が持つ多様な機能を活かした取組の推進

(4)公園の持続的な管理運営

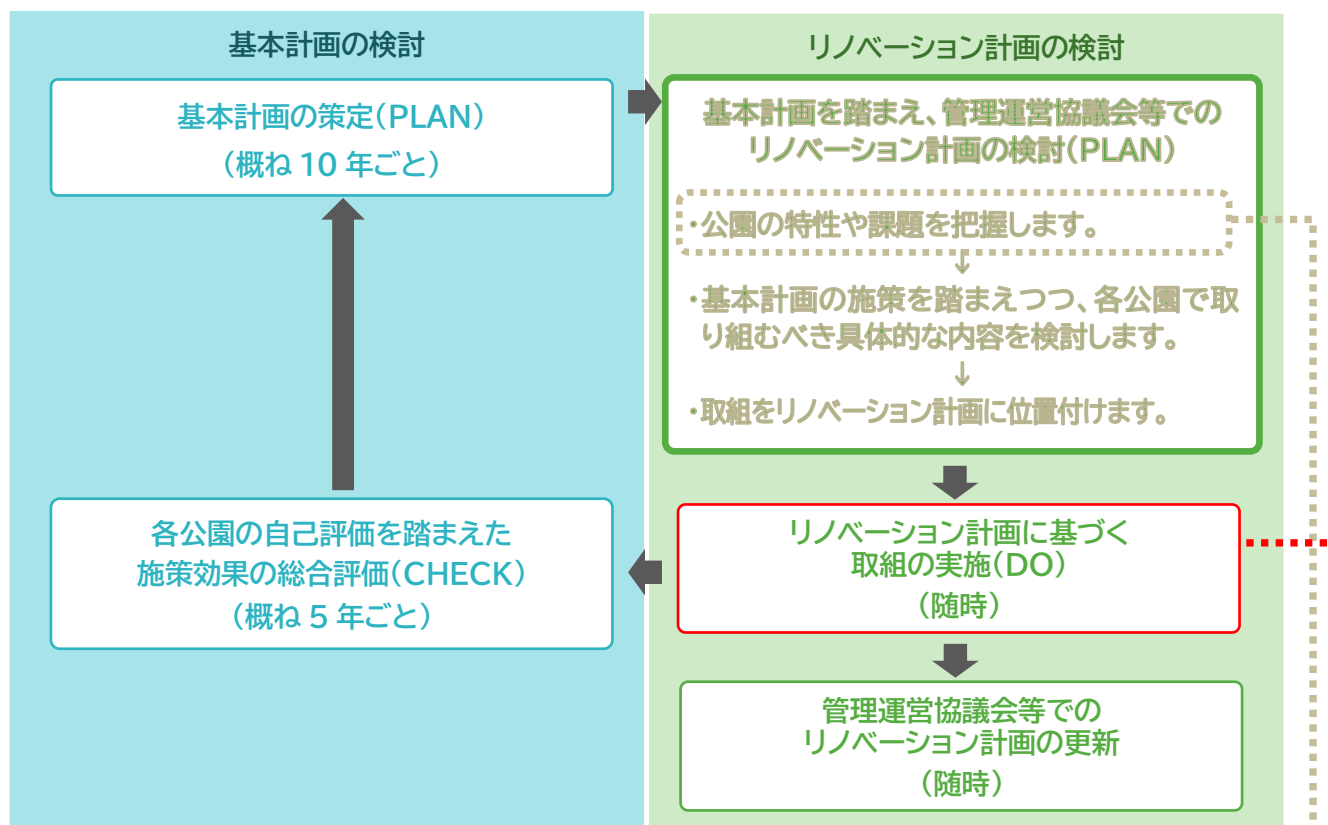
- ・県民が公園運営に参加し、活躍できる場の創出や、地域と行政をつなぐ人材の育成

2-2 リノベーション計画の進め方

リノベーション計画は、管理運営協議会等を通じて県民の意見を適切に反映しながら、具体的な取組内容を検討していきます。そして、時代の潮流や利用者ニーズの変化に柔軟に対応するため、取り組む内容については必要に応じて随時見直しや更新を行います。

また、リノベーション計画の取組実績等は、基本計画の総合評価等にフィードバックし、次期計画への改善・反映につなげていきます。

具体的なフローは以下のとおりです。



※公園の特性把握に向けた調査・検討の視点

■これまでの取組の蓄積を振り返る

過去の取組実績とその成果を振り返り、各公園が今後も継続・発展させるべき事項を整理します。

■公園内外の資源を確認する

公園内の施設や周辺地域・環境が有する資源（自然、歴史遺産、文化的営み、観光施設等）に着目し、公園の強みや周辺と機能分担すべき事項を確認します。

■利用実態・利用ニーズを把握する

利用者アンケート等の結果を分析し、時代に応じて利用者が公園に求めているものを把握します。

※リノベーション計画の実施について

県が優先順位に基づく実施スケジュール案を管理運営協議会等で示し、協議を経た上で実施します。

3 赤穂海浜公園の計画内容

3-1 赤穂海浜公園の概要

(1) 公園概要

公園名	赤穂海浜公園	
開設年月日	昭和 62 (1987) 年 7 月 25 日	
面積	計画面積：71.7ha 開園面積：71.7ha	
公園種別	広域公園	
主な施設	わんぱく広場、テニスコート、オートキャンプ場、塩の国、赤湖・白湖、遊園地	

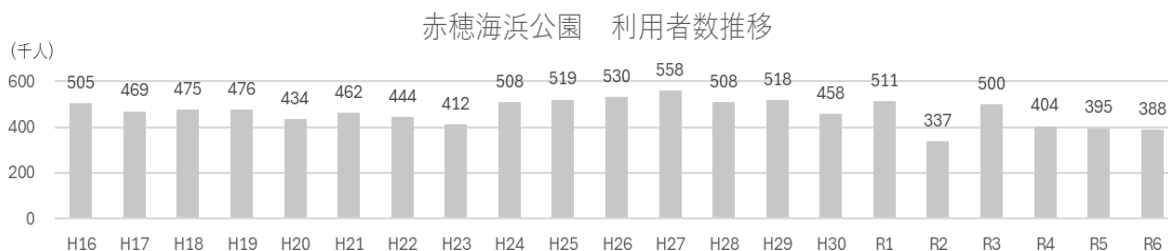
赤穂市には、“赤穂義士と塩の町”として、赤穂城址をはじめ、今なお多くの製塩の歴史を伝える文化遺産が残されている。赤穂海浜公園は、その沿岸部の塩田跡地に造られた広域公園である。西は千種川、南は瀬戸内海国立公園に隣接し、海岸は春から夏にかけて潮干狩や海水浴で賑わう。

公園の中央に 9.2ha の人工海水湖、「赤湖・白湖」を配置し、遊園地「わくわくランド」、オートキャンプ場、テニスコート等の施設のほか、赤穂の特色を生かした揚浜式から流下式塩田を復元し、伝統的製塩を行う「塩の国」を整備している。

赤穂海浜公園では、公園のさらなる魅力を図るため、民間のノウハウを積極的に活用し、公園を総合的かつ戦略的に一体管理する「段階投資型長期指定管理」を令和 7 年度から導入し、20 年間にわたる管理運営を行っている。

(2) 利用者数の推移

令和元年までは、500 千人前後の利用者数であったが、コロナ禍の令和 2 年度には 337 千人まで減少した。令和 3 年度には 500 千人まで回復したが、その後は 400 千人前後で推移している。



(3) 施設配置図



わんぱく広場



テニスコート



オートキャンプ場



赤湖・白湖

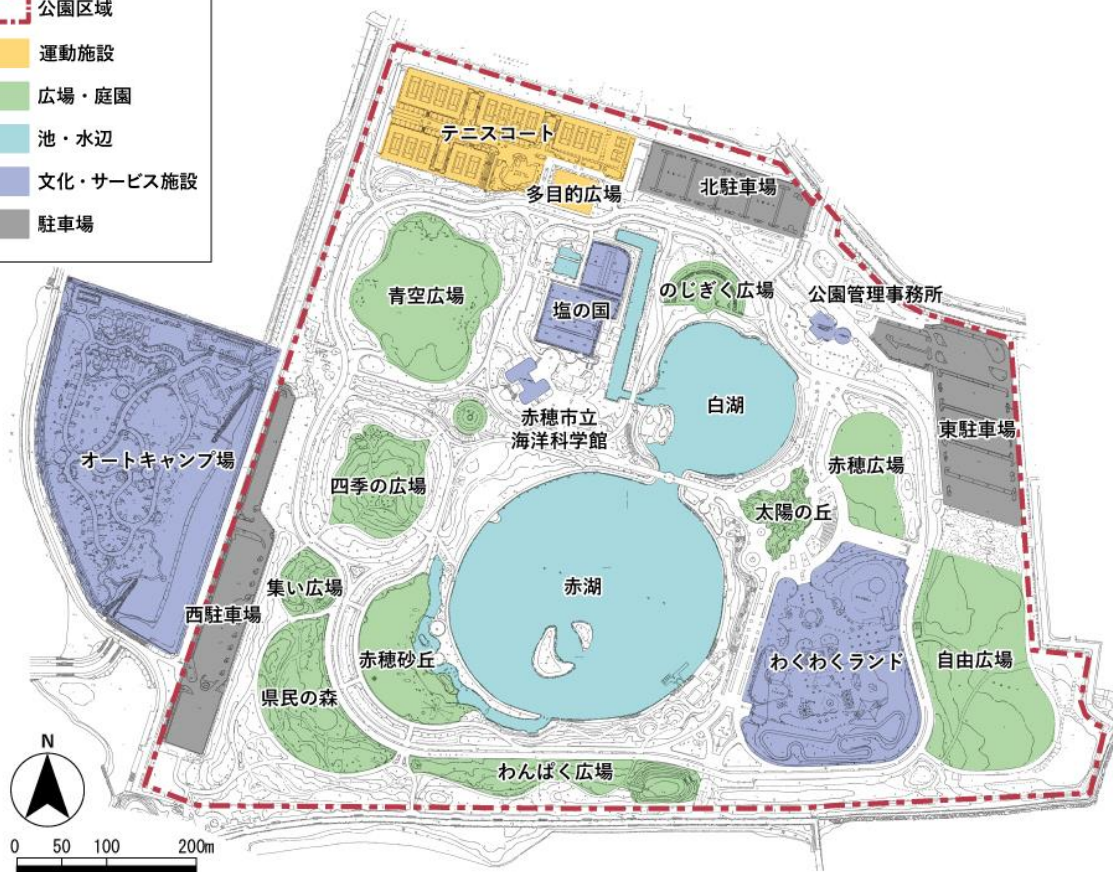


赤穂市立海洋科学館（塩の国）



わくわくランド

- 凡例
- 公園区域
 - 運動施設
 - 広場・庭園
 - 池・水辺
 - 文化・サービス施設
 - 駐車場



(4) 赤穂海浜公園の成り立ち

赤穂海浜公園の開園から現在に至るまでの整備および管理・運営に関わる主な出来事を整理し、これをもとにこれからの方向性を検討した。



3-2 リノベーションテーマ

「赤穂海浜公園魅力アップ計画(H31.3策定)」の基本方針も踏まえ、赤穂海浜公園のリノベーションテーマおよびキーワードを以下の通り設定する。

テーマ：赤穂の塩を活かした地域・観光振興、多様な遊具等を活かしたレクリエーション

キーワード：

赤穂の塩

子育て

観光

3-3 リノベーション方針

公園の成り立ちや各施設の利用状況、周辺施設の状況等から総合的に判断し、「新規施設導入」、「機能の更新」、「機能の維持・保全」に分類したリノベーション方針を示す。対応については、今後、管理運営協議会等で詳細を議論することとする。

なお、実施に当たっては、財政状況・施設の運営状況・社会情勢（ポストコロナ・SDGs等）を考慮し、県民全体のサービス向上に資するように努める。

(1) 現状と課題及び方針

■：新規施設導入 ■：機能の更新 ■：機能の維持・保全

キーワード	施設名	利用状況	課題	対応（○ハード、■ソフト）
観光 赤穂の塩	塩の国 (市の施設)	●小中学生を中心に塩づくり体験や塩田作業体験を実施。	●塩づくりを体験できる唯一の施設であるにもかかわらず、観光に十分活かされていない。(日本遺産である「赤穂の塩」の構成施設として充実が必要)	機能の更新 ■観光拠点の一つとして、市や周辺観光施設と連携した体験プログラムや観光ツアーの開発 ○老朽化した製塩体験施設等の更新
子育て 観光	遊具(わんぱく広場)	●家族連れに人気があり、特に大型遊具が人気。	●アスレチック遊具の老朽化が激しい。 ●アスレチック等の幼稚園児以上が対象の遊具のみで、幼児が遊べる遊具がない。 ●周囲に日陰が少なく、夏は暑い。 ●1日過ごすのに食事をする場所がない。	機能の更新 ○アスレチック遊具の修繕 ○幼児が遊べる遊具の整備 ○日陰となる四阿等の整備 ○夏の暑い際に水遊びが出来る水遊び場の整備
	わくわくランド	●赤穂近隣からの一定数の利用者は継続的に存在。 ●年間を通じて開催されるこどもワクワクフェスタの参加者は107,438人。	●(公財)兵庫県園芸公園協会所有の大型遊具である観覧車の維持管理費が高額である。 ●背景人口が少ないことから、京阪神から集客しない限り、利用者の大幅な伸びは難しい。 ●海に隣接しているが、海岸沿いには盛り土や柵があり、海との一体感を得にくい。	立地環境を活かしたリノベーションとその一環となる新規施設導入 ○千種川、唐船海岸や御崎漁港とも連携する開かれた公園の計画・整備 ○維持管理に負担の大きい観覧車の撤去(R3実施済) ○観覧車跡地や自由広場を活用し、赤穂産塩や牡蠣なども楽しめるグランピング施設等の整備 ■園内広場や湖、近隣の海水浴場を活用し、カヤックやビーチバレー等のマリンスポーツの展開(喫茶パルコの営業時間検討) ○海岸との自由な行き来を確保するため、海岸側の柵等の一部撤去の検討 ○風のブロムナードの清掃・修繕 ○主要遠路沿いの木陰等に、ウォーキング利用者が休憩出来るベンチや日除けベンチ等を増設 ○園内に、移動店舗(キッチンカー等)用の電源設備等を増設
観光	公園全体 広場等(赤穂広場、青空広場、自由広場、四季の広場、多目的広場、赤湖、白湖、主要園路、風のブロムナード)	●入り口に近い赤穂広場や青空広場については、家族連れ等の利用が多い。	●自由広場は入り口から遠く、需要は少ない。	
	オートキャンプ場	●年間通して一定の利用者があり、年間利用者数は約23,000人。	●平日やオフシーズン(冬場)の利用者が少ない。	機能の維持・保全 ■現在も実施している冬場の牡蠣キャンプなど、平日や冬ならではのアクティビティのさらなる充実
その他	テニスコート	●利用率：38.9%(H29)、40.1%(H30)、35.5%(R1)	●整備後35年を経過しており老朽化が著しい。	機能の維持・保全 ○クラブハウス等の老朽化施設の計画的な修繕
	駐車場	●車での来園が約9割を占める。	●平日やオフシーズン(冬場)の利用者が少ない。	機能の更新 ■社会実験として駐車場の無料化の実施(R3実施済)、公園の開園時間延長を検討

キーワード	施設名	利用状況	課題	対応（○ハード、■ソフト）
	県民の森	●散策利用以外では使われていない。	●過密状態の一方、生育不良の樹木等が見受けられる。 ●林地を活かした散策利用以外の利用の展開が期待される。	機能の維持・保全 ○■植物の調査及び樹木の間伐等適切な維持管理の実施 ■環境学習やプレーパーク等の環境整備
	赤湖（塩生植物）	●住民参画活動として、H16より塩生植物を復元させる「復活プロジェクト」により、生育調査等実施。	●公園資源ともなる貴重な植物を十分PR出来ていない。	機能の維持保全 ■植物の調査及び環境学習プログラムや解説の充実
管理運営	管理運営協議会	●より多くの人に公園を利用してもらうため、公園活性化を目的とした管理運営協議会をR1年度より開始。	●個人及び団体でのイベント等で公園を気軽に使える仕組みづくりが必要である。	■公園使用の手続きの簡素化等の検討 ■地域や企業、団体、大学等との連携の強化 ■広報・情報発信の強化

（2）公園をとりまく社会情勢の変化

コロナ後等の社会情勢を見据え、施設の新たな活用を検討するとともに、SDGs 達成を目指した取り組みを推進する。

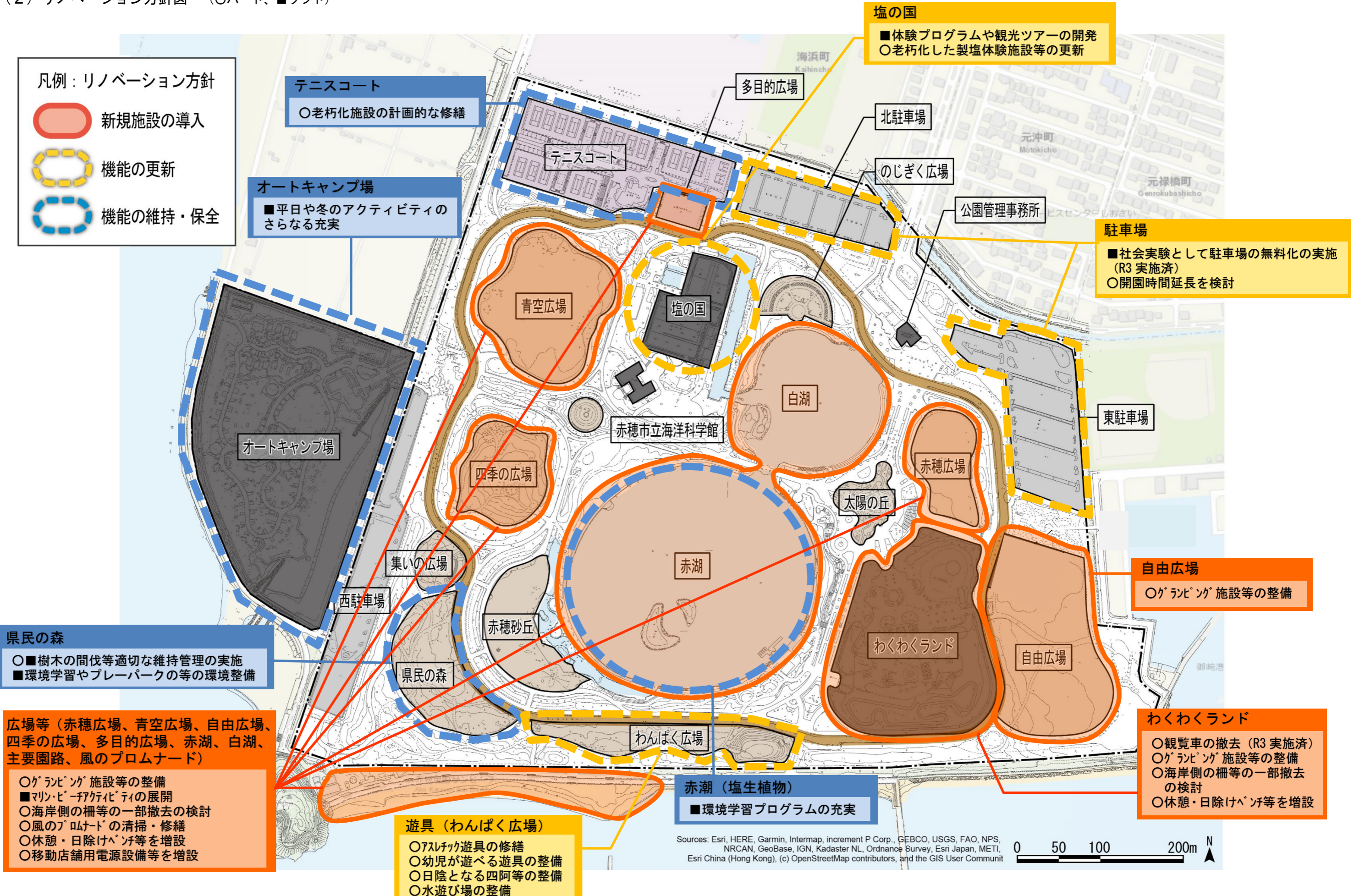
（ポストコロナ）

- 「3密」回避できるセルフレクリエーションの推進
 - ・健康づくりや環境学習等の仕組みづくりを検討
- 公園内外のマイクロツーリズムの展開
 - ・市や関係機関等との連携による、日本遺産の「赤穂の塩」等の地域資源を活かした取り組みの実施
- リモートワークの推進
 - ・グランピングやマリンスポーツ等と連携したワーケーションの場としての活用

（グリーンインフラ）

- 施設の修繕・新規整備の際は、透水性舗装化等の貯留・浸透機能を有効に活用

(2) リノベーション方針図 (○ハード、■ソフト)



3-4 取組内容

計画の対象ごとに、課題、実施主体（案）、概要を示し、これに基づいてリノベーションを実施する。

①塩の国（市の施設）

<課題>

- 塩づくりを体験できる唯一の施設であるにもかかわらず、観光に十分活かされていない（日本遺産である「赤穂の塩」の構成施設として充実が必要）。

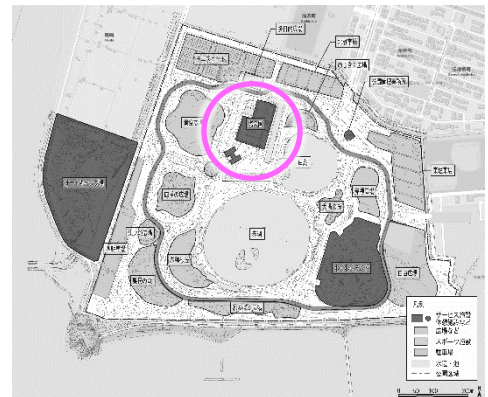
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ 体験プログラムや観光ツアーの開発	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 老朽化した製塩体験施設等の更新	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

<概要>

観光拠点の一つとして、市や周辺観光施設と連携した体験プログラムや観光ツアーを開発する。



塩の国

②遊具（わんぱく広場）

<課題>

- アスレチック遊具の老朽化が激しい。
- アスレチック等の幼稚園児以上が対象の遊具のみで、幼児が遊べる遊具がない。
- 周囲に日陰が少なく、夏は暑い。
- 1日過ごすのに食事をする場所がない。

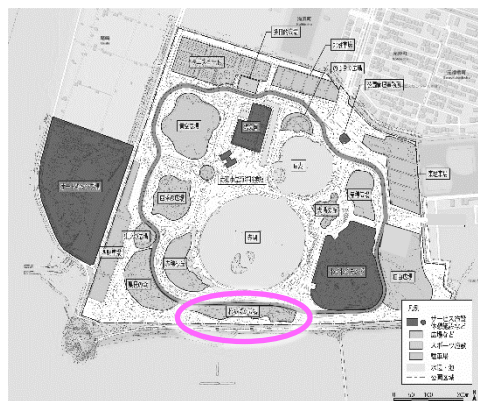
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ アスレチック遊具の修繕	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 幼児が遊べる遊具の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 日陰となる四阿等の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 水遊び場の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

<概要>

老朽化の激しいアスレチック遊具の修繕とともに、幼児が遊べる遊具を整備する。また、夏の暑い日も家族連れ等が過ごしやすくするため、日陰となる四阿等の整備や、水遊びができる水遊び場を整備する。



アスレチック遊具



難破船遊具

③わくわくランド

<課題>

- （公財）兵庫県園芸・公園協会所有の大型遊具である観覧車の維持管理費が高額である。
- 背景人口が少ないことから、京阪神から集客しない限り、利用者の大幅な伸びは難しい。
- 海に隣接しているが、海岸沿いには盛り土や柵があり、海との一体感を得にくい。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ 観覧車の撤去（R3 実施済）	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ グランピング施設等の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 海岸側の柵等の一部撤去の検討	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 休憩・日除けベンチ等を増設	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

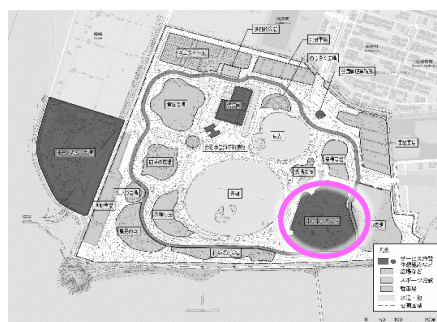
<概要>

維持管理に負担の大きい観覧車を撤去する。（R3 実施済）

撤去した観覧車跡地や自由広場を活用し、赤穂産塩や牡蠣なども楽しめるグランピング施設等の整備を展開する。

海岸との自由な行き来を確保するため、柵等の一部撤去を検討する。

屋根付きの休憩所、木陰で快適に座れるベンチ等を増設する。



④広場等（赤穂広場、青空広場、自由広場、四季の広場、多目的広場、赤湖、白湖、主要園路、風のpromenade）

<課題>

- 自由広場は入り口から遠く、需要は少ない。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ	グランピング施設等の整備 （③の再掲）	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	マリン・ビーチアクティビティの展開	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ	海岸側の柵等の一部撤去の検討 （③の再掲）	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ	風のpromenadeの清掃・修繕	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ	休憩・日除けベンチ等を増設 （③の再掲）	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ	移動店舗（キッチンカー等）用電源設備等を増設	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

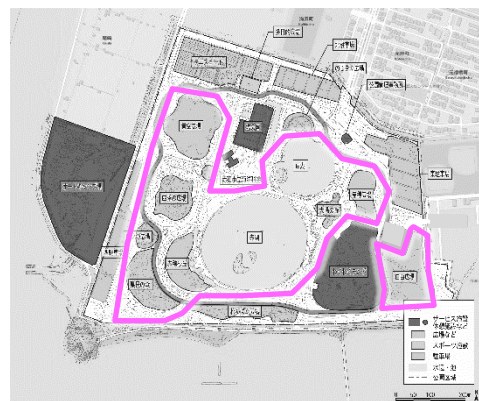
<概要>

撤去した観覧車跡地や自由広場を活用し、赤穂産塩や牡蠣なども楽しめるグランピング施設等の整備や、園内広場や湖、近隣の海水浴場を活用したカヤックやビーチバレー等のマリン・ビーチアクティビティを展開する。

屋根付きの休憩所、木陰で快適に座れるベンチ等を増設する。

移動店舗等用の電源、水道等のインフラ整備を進める。

海岸との自由な行き来を確保するため、柵等の一部撤去を検討する。



⑤オートキャンプ場

<課題>

- 平日やオフシーズン（冬場）の利用者が少ない。

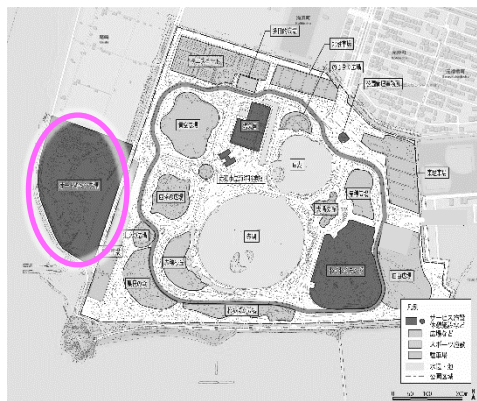
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ソ 平日や冬のアクティビティのさらなる充実					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

現在も実施している冬場の牡蠣キャンプなど、平日や冬ならではのアクティビティのさらなる充実を図る。



オートキャンプ場

⑥テニスコート

<課題>

- 整備後 35 年を経過しており老朽化が著しい。

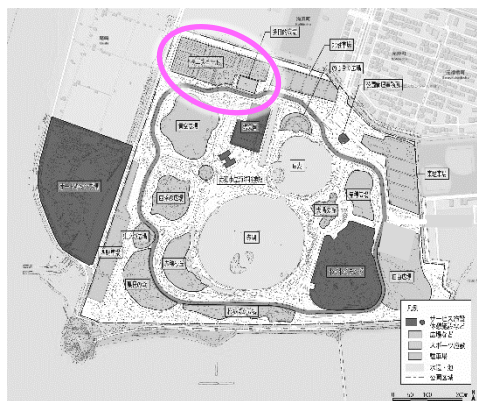
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 老朽化施設の計画的な修繕					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

クラブハウス等の老朽化施設を計画的に修繕する。



テニスコート



クラブハウス

⑦ 駐車場

<課題>

- 平日やオフシーズン（冬場）の利用者が少ない。

<実施主体（案）>

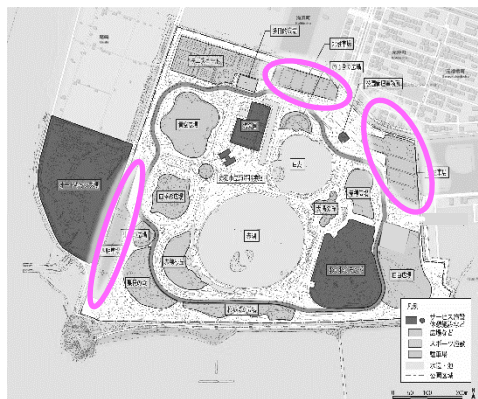
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	社会実験として駐車場の無料化の実施（R3実施済）、公園の開園時間延長を検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

各施設における平日や冬ならではのアクティビティのさらなる充実と合わせ、社会実験として駐車場の無料化を実施する。（R3 実施済）

公園の開園時間の延長についても検討する。



⑧県民の森

<課題>

- 過密状態の一方、生育不良の樹木等が見受けられる。
- 林地を活かした散策利用以外の利用の展開が期待される。

<実施主体（案）>

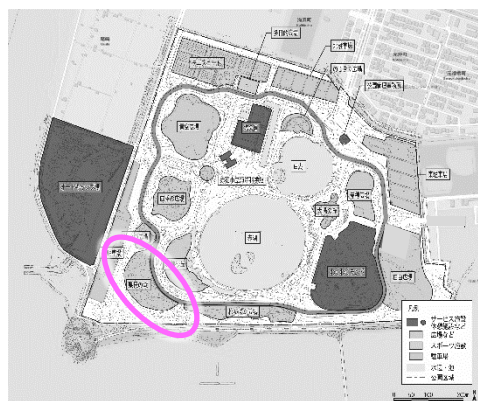
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ ソ	樹木の間伐等適切な維持管理の実施					
ソ	環境学習やプレーパーク等の環境整備					

<概要>

植物の調査を実施したうえで、環境学習等にも活かせる緑地として、樹木の間伐等適切な維持管理を実施する。

植物の調査を実施したうえで、環境学習等にも活かせる緑地として、環境学習プログラムや、林地を使ったプレーパーク等自然遊びプログラムを作成する。



⑨赤湖（塩生植物）

<課題>

- 公園資源ともなる貴重な植物を十分PR出来ていない。

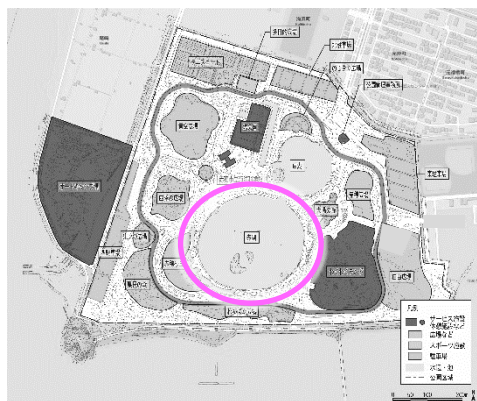
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	環境学習プログラムや解説の充実					

<概要>

住民参画活動として実施している塩生植物の復活プロジェクトによる植物の調査を実施し、環境学習プログラムや解説の充実を図る。



⑩管理運営協議会

<課題>

- 個人及び団体でのイベント等で公園を気軽に使える仕組みづくりが必要である。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	公園使用の手続きの簡素化等の検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	地域や企業、団体、大学等との連携強化	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	広報・情報発信の強化	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

より多くの人に公園を利用してもらうため、公園活性化を目的とした公園使用の手続きの簡素化等を検討する。

地域や企業、団体、大学等、幅広い団体等との連携を強化するとともに、公園が持つ魅力を確実に届けられるよう広報、情報発信についても強化する。

⑪社会情勢の変化への対応（ポストコロナ時代への対応）

<課題>

- ポストコロナを見据え、公園の新たな活用が期待されている。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ ソ	セルフクリエイエーションの推進	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ ソ	マイクロツーリズムの展開	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	リモートワークの推進	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

健康づくりや環境学習等の仕組みづくりを検討する。

また、市や関係機関等との連携による、日本遺産の「赤穂の塩」等の地域資源を活かした取り組みを実施する。

さらに、グランピングやマリン・スポーツ等と連携したワーケーションの場として活用する。

⑫社会情勢の変化への対応（グリーンインフラの推進）

<課題>

- 近年増加している豪雨に対応するため、公園内の施設を利用したグリーンインフラの整備が必要である。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ	貯留・浸透機能の有効活用	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

施設の修繕・新規整備にあわせた透水性舗装化等、貯留・浸透機能を有効に活用する。